

小浜線全線開業100周年 地元可愛さつづける小浜線の姿



二〇二二年十二月二十日、JR小浜線が全線開業から一〇〇年を迎えた。間に迫る北陸新幹線敦賀開業は、小浜線にとっても転機となるだろう。そこで小浜線の歴史・現状・将来について取材した。

小浜線全線開業 までの道のり

第一次世界大戦中の一九一五年、小浜線の本格工事は始まった。戦時下の鉄類輸入困難や物価高により工事は難航し、大雪や土砂崩れで大幅に作業が遅れる区間もあった。特に天狗山トンネルでは岩盤が固く、作業の行く手を阻んだ。また作業員のストライキで

地域と守る未来の小浜線

我々はJR西日本敦賀地域鉄道の阪森一介さんと北野進一さんに話を伺った。小浜線は現在、一日あたりの輸送密度が二千人未満の赤字路線の一つになっているという。嶺南の人口も減っており、路線の維持が危機にある。



小浜線の現状を聞く

このような状況の中、JRでは利用者増を狙った様々な催しを行っている。十月には「丹後くるまっ号」や自転車を持ち込めるサイクルトレイン等の臨時列車を運行した。小浜駅で行った「鉄道お仕事体験会」には、子どもから大人まで多くの人で賑わった。



tabiwaアプリ

二〇二四年秋には、観光列車が誕生する。小浜線、舞鶴線、京都丹後鉄道を経由して敦賀から城崎温泉まで結ぶルートが予定されている。全国から観光客を迎え、リピーターとして何度もこの地に訪れてもらいたい。そのためには、沿線市町のおもてなしが欠かせない。



小浜線を走る観光列車イメージ

一〇〇周年を迎えた小浜線は、たくさんの観光客を呼び込むための魅力づくりが一層必要になるだろう。他のローカル線にはない「北陸新幹線敦賀延伸」という大きな魅力を生かして、新幹線を利用してから小浜線を利用してもらおうことが重要になってくる。また、小浜線を降りてから各観光地への二次交通となるバスやレンタルサイクル等には地域の協力が必須だと北野さんは言う。

小浜線を彩った 車両たち

開業後はC58(SL)が運用された。一九六一年にディーゼル車が導入され、



赤レンガ倉庫横に
展示されているキハ28

工事が中断したこともあった。さまざまな困難を乗り越え、一九一七年に敦賀十村間が開通した。一九一八年に十村小浜間、一九二一年に小浜若狭高浜間、そして、一九二二年に若狭高浜新舞鶴間が開通し、全線開業に至った。沿線各地で祭りや祝賀会が開かれ、全線開通を皆で祝福した。

また、昭和五十年代にはマリン若狭号やエメラルド号などの臨時列車が走った。自然や海水浴場を求めて訪れる多くの人々を運び、観光列車として地域に賑わいをもたらしていた。

C58は一九七一年九月まで活躍し、現在は小浜市中央公園などに保存されている。二〇〇三年三月十五日の電化後は、113系電車が登場した。白い車体に引かれたブルーグリーンカラーの「小浜線色」と言われ、多くの人に愛されてきた。二〇〇六年以降は現在の125系電車が走っている。窓の下に描かれた緑色の帯は、若狭の海や山をイメージしている。

服のカプロジェクト 服で繋がる人と人

地理総合の授業の一環で一年Rホーム、二ホームは「ユニクロ」「GU」を運営するファーストリテイリング主催の「届けよう服のカプロジェクト」に参加した。これは着なくなった子ども服を回収して、難民などの世界中で服を必要としている人々に届ける活動である。今世界には、紛争や迫害などによって母国を離れた難民が約二千万人おり、難民キャンプでは服を手に入れるに困難が続いている。



ダンボールいっぱいのお服

生徒達はグループに分かれ、自分たちが住んでいる地域の幼稚園・小・中学校を訪問し、着なくなった子ども服の回収の協力を呼びかけた。十一月二十五日、二クラスが協力して服の種類ごとに選別した。今回のプロジェクトで約千四百着もの服が集まった。Rホームの山田唯華さんは「思った以上に集まってやりがいを感じた。難民問題についても詳しく知る良い機会となった」と語った。



各地から集まった子ども服

先生は「国際問題に目を向けるきっかけになってほしい。チームで協力して活動し、様々な問題に気づき行動できる人になってほしい」と語った。集めた服は指定の倉庫に配送され、梱包された後、難民キャンプなどに届けられるそう。難民の方の笑顔が増えることが嬉しい。そして、世界から紛争がなくなり、根本的な問題解決に向かって欲しい。

美高生の「推し活」 その実態とは！

最近話題になっている「推し活」。自分のイチオシの人やものごとを様々な方法で応援する活動のことである。そこで、美高生がどのような推し活をしているのか調査した。その結果、回答者一〇人中、八〇人が何らかの推し活をしていることが分かった。ジャンルは幅広く、特にアニメや芸能人、ユーチューバーやKPOPアイドルが多かった。活動内容は多岐にわたり、SNSチェック・グッズ購入・コスプレや投げ銭など、自分の趣味を活かした活動をしている。推し活に年間使う金額は、数千円程度が多い中、十万円以上も数名いた。

実際に推し活をしているKさんは、ゲーム「あんさんぶるスターズ」のValkyrieというユニットを推している。活動内容は、グッズ集め、グッズの写真を撮る、絵を描くこと等。推し活をする中で、同じものを推している人を見つけたり、推しの存在を身近に感じることができると言う。推し活は私たちの精神面の支え、気分向上にもつながっている。



推し活の一種『グッズ集め』